

お知らせ

1. 平成20(2008)年度・公開実習予定 (合津マリンステーション)

- (1) 「干潟観察会」(2回)・「ウミホタル観察会」(2回)
(上天草市と共催で7・8月に計4回実施, 日時は未定).

どちらの観察会も上天草市松島町で行います. 詳細は, 合津マリンステーション (0969-56-0277) または天草ビジターセンター (0969-56-3665) にお問い合わせ下さい.

- (2) 「海の生きものを知る ― 天草の海の神秘 ―」
(熊本大学一般公開実習)

高校生を対象に, 7月26日(土)午後1時~27日(日)午後2時(1泊2日, マリンステーションに宿泊). ウミホタルやハクセンシオマネキなどの観察, 海岸動物の採集と観察, 実習船を使ってのプランクトンの採集やイルカの観察を行います. 合津マリンステーションに集合. 募集人員は, 25名.

- (3) 「公開臨海実習: 行動生態学実習」(大学間単位互換実習)

大学生. 8月18日(月)~24日(日)(6泊7日. 合津マリンステーションに宿泊). ハクセンシオマネキとヤドカリ類の行動生態学の講義と実習(野外観察, 室内実験)を行います. 単位認定については各大学の事務で確認して下さい. 募集人員は12名.

なお, 合津マリンステーションまでの交通や実習の詳細は, 以下のHPで確認できます.

アドレス: <http://www.geocities.jp/henmiy21/>

2. 「沿岸域における生物生息環境の変遷と保全に関する先端科学技術研究」

第6回

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会

日時: 2008年3月21日(金) 13:00~17:10

会場: 熊本大学工学部百周年記念館

熊本市黒髪2-39-1

会費: 無料

開会 13:00~13:05 挨拶 内野明德(沿岸域環境科学教育研究センター長)

講演 13:10~17:10 (講演20分, 質疑5分)

13:10~13:35 「ハマグリが生息状況と保全: 資源管理は可能か?」

逸見泰久(生物資源循環系解析学分野 教授)

13:35~14:00 「干潟底生生物の環境改変作用が小型生物に与える影響」

嶋永元裕(生物資源循環系解析学分野 准教授)

14:00~14:25 「養殖ノリの環境ストレス応答機構」

瀧尾進(生物資源保全・開発学分野 教授)

14:25~14:50 「ヒガシナメクジウオを生息地に戻せるか: 室内飼育の試み」

安井金也(広島大学大学院理学研究科 教授; 学外協力研究者)

休憩(14:50~15:05)

15:05~15:30 「有明海の再生策とマスタープラン」

滝川清(水・地圏環境科学分野 教授)

15:30~15:55 「堆積物試料が示す熊本沖有明海の過去60年間の環境変遷」

秋元和實(水・地圏環境科学分野 准教授)

15:55~16:20 「有明海の干潟を利用する鳥類と利用様式に関する観察」

塚原和之(有限会社 西日本野生生物調査 代表取締役; 学外協力研究者)

16:20~16:45 「閉鎖性海域の環境保全・再生技術のいまー有明海と他海域の比較から」

五明美智男(沿岸域社会計画学分野 客員教授)

16:45~17:10 「陸域由来の汚濁負荷に対する技術政策シナリオの評価システムの構築」

村野昭人(沿岸域社会計画学分野 客員准教授)

閉会17:10

司会進行 瀧尾進

お問い合わせ

熊本大学 研究・国際部研究支援課 研究センター支援担当 電話096-342-3143(直通)

3. 著書紹介

月刊誌「海洋と生物」の「特集: 有明海の環境変化ー現場からさぐるその実態ー」(173, Vol.29-No.6)

出版: 生物研究社, 2007年12月

定価: 1,680円

有明海の環境変化の実態を示し, 何がその原因と考えられるかを, 最新の研究成果を基に紹介した特集です. 滝川教授と秋元准教授らが共著で, 「有明海の海域環境の変動特性と再生方策」を執筆しています.



連絡先: 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

事務連絡先: 熊本大学研究・国際部研究支援課

TEL: 096(342)3143 FAX: 096(342)3149

HP: <http://www.kumamoto-u.ac.jp/center-for-marine/top.htm>